おくのほそ道

旅立ち　―品詞分解―

月日（係助・提示）は　百代（格助・体修）の　過客（断・用）に　して（接助・単接）、　行きかふ（ハ四・体）　年（係助・同類）も　また（副）　旅人（断・終）なり。　舟（格助・体修）の　上に　生涯（格助・対象）を　浮かべ（バ下二・用）、　馬（格助・体修）の　口　とらへ（ハ下二・用）て　老い（接助・単接）を　迎ふる（ハ下二・体）　者（係助・提示）は、　日々　旅に（断・用）　して（接助・単接）、　旅（格助・対象）を　栖と（格助・資格）　す（サ変・終）。　古人（係助・同類）も　多く（形ク・用）　旅に（格助・場所）　死せ（サ変・未）る（完・体）　あり（ラ変・終）。　予（代）も、　いづれ（代）の　年（格助・体修）より（格助・起点）か、　片雲（格助・主格）の　風に　誘は（ハ四・未）れ（受・用）て（接助・単接）、　漂泊（格助・体修）の　思ひ　やま（マ四・未）ず（打・用）、　海（格助・受対）に　浮かん（意・終）と（格助・引用）、　そぞろ神（格助・主格）の　物に（格助・対象）　つき（カ四・用）て（接助・単接）　心（格助・場所）を　狂は（ハ四・未）せ（使・用）、　道祖神（格助・体修）の　招き（格助・対象）に　あひ（ハ四・用）て（接助・理由）　取る（ラ四・体）　もの　手に（格助・対象）　つか（カ四・未）ず（打・用）、　股引（格助・体修）の　破れ（係助・強意）を　つづり（ラ四・用）、　笠（格助・体修）の　緒　付け替へ（ハ下二・用）て（接助・単接）、　三里（格助・場所）に　灸（係助・強意）を　据うる（ワ下二・体）　より（格助・即時）、　松島（格助・体修）の　月　まづ（副）　心（格助・場所）に　かかり（ラ四・用）て（接助・単接）、　住め（マ四・已）る（存・体）　方は（係助・区別）　人に（格助・対象）　譲り（ラ四・用）、　杉風（格助・体修）が　別墅に（格助・帰着）　移る（ラ四・体）に（格助・時間）、　草（格助・体修）の　戸も（係助・同類）　住み替はる（ラ四・体）　代（係助・強意）ぞ　雛（格助・体修）の　家　表八句（格助・対象）を　庵（格助・体修）の　柱に（格助・帰着）　掛け置く（カ四・終）。　弥生（係助・強意）も　末の七日、　あけぼの（格助・体修）の　空　朧々と（形動タリ・用）　して（接助・単接）、

月（は：係助・区別）有明（に：断・用）て（接助・単接）光（をさまれ：ラ四・已）る（存・体）ものから、
富士の峰（かすかに：形動ナリ・用）見え（ヤ下二・用）て（接助・単接）、上野、谷中（の：格助・体修）花（の：格助・体修）
梢、（また：副）いつ（代）かは（係助・疑問（略））と（格助・引用）心細し（形ク・終）。むつまじき（形シク・体）かぎり
は（係助・提示）宵（より：格助・起点）集ひ（ハ四・用）て（接助・単接）、舟（に：格助・対象）乗り（ラ四・用）て（接助・単接）
送る（ラ四・終）。千住（と：格助・引用）いふ（ハ四・体）所（にて：格助・場所）舟（を：格助・起点）上がれ（ラ四・已）
ば（接助・順偶）、前途三千里（の：格助・体修）思ひ（胸：格助・場所）に）ふさがり（ラ四・用）て（接助・理由）、
幻（の：格助・体修）ちまた（に：格助・場所）離別（の：格助・体修）涙（を：格助・対象）そそぐ（ガ四・終）。
行く（カ四・体）春（や：間助・詠嘆）鳥（啼き：カ四・用）魚（の：格助・体修）目（は：係助・区別）涙
これ（代）を（格助・対象）矢立（の：格助・体修）初め（と：格助・資格）し（サ変・用）て（接助・単接）、行く（カ四・体）
道（なほ：副）進ま（マ四・未）ず（打・終）。人々（は：係助・提示）途中（に：格助・場所）立ち並び（バ四・用）
て（接助・単接）、後ろ影（の：格助・主格）見ゆる（ヤ下二・体）まで（副助・範囲）は（係助・区別）と（格助・引用）見送る（ラ四・体）
なる（断・体）べし（推・終）。